ペーパームービー

paper movie

内田也哉子

内田也哉子

ペーパー

paper movie

朝日出版社

ペーパームービー

1996年3月3日　初版第1刷発行

著者――――――内田也哉子
企画・編集 ――――秋山道男
発行者 ――――原　雅久
発行所 ――――朝日出版社
東京都千代田区西神田3-3-5　郵便番号101
電話03-3263-3321（代表）
印刷・製本所 ―― 凸版印刷株式会社

ISBN4-255-96004-6 C0095
©Yayako Uchida, 1996 Printed in Japan
乱丁・落丁本は、ご面倒ですが小社営業部宛お送り下さい。
送料小社負担にてお取替えいたします。価格はカバーに表示してあります

こんにちは

はじめまして。

私は也哉子といいます。

この本の中の文章を書いたのは私です。

でも、私は文章を書く専門家ではありません。今まで書いた文章といえば、友達への手紙か、学校の宿題の感想文くらいです。なんでそんな人が本を出せるの？

私もそう思います。

世のなかに不思議なことが、いっぱいあります。これも、きっとその中のひとつです。

ちょっと、頼りない感じですが、もしよかったら、私のある日、見てみて下さい。どうぞよろしく。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

ペーパームービー

オモイガケナク（まえがき）

ツヤツヤのあずき色で、太くて、重みがあって、金色の細い字でyayakoと刻まれていて、おまけに星印もついているモンブランのシャープペンシルを嬉しそうに眺める私。

あー、こんなスゴそうなもの、何で私が持ってるんだっけ？　アレ、大学の入学祝い？は昨年のことだし……。

頭の回転が遅い私に、その時ばかりはカミナリが落ちた。

ワッ！　そうだ！　これは、ちょっと大変そうな意味のついた贈り物だったんだ。まだ三回ぐらいしか会ったことがない秋山さんていう人に、「アナタ

文章ヲ書イテミナサイ」と言われて「文筆家」としての第一歩の記念にプレゼントされたものだったのだ。

そういえば、原稿用紙もいっぱいもらったんだよな。でも私の書いた文章を全然読んだことない人がどうしてそんなこと言うんだろ？　うーん、ちょっと困った。いやいや、ずいぶん困った。

書くって何だろ……　文章って何だろ……　自分が思ってるとか、思ってたとか、思うだろうことを想って言葉を並べてくこと？　うーん、今までだって、それらしきことはしたことあるけど、改めて書くってことをすすめられて、今回それがとてもおおごとの様におしよせてきた。

今まで書いたものって何だろう。学校の宿題の感想文。でもアレには、良い思い出がない。自分の心が動かされたことを、言葉にするのがあまり好きではなかったし、そうすることによって何だかその気持ちが消えていってしまう気がした。単に、そういうものは、自分の心の中だけにとっておきたいタチの少女だったのだけれど、このタチには自分でもほとほと嫌気がさしていた。なにせ、毎回宿題が出る度に、その「イヤダ、モッタイナイカラオシ

エナイ心」と、「デモソシタラ宿題終ワラナイゾ心」との葛藤だったのだから。

そういえば、五年日記というものを付けたことがある。毎日、五、六行のスペースに色んなことを書き込んでくうちに、前の年の同じ日に書いたことも見れるようになる。五年目にもなると、過去四年間の記録がいっぺんに見れてしまう。当たり前のしくみとはいえ、ひどく感心したわけだ。けれども、その感動は持続することなく、次なる挑戦の十年日記という存在はいつの間にやら私の前から消え去っていった。

まったく、私には楽しく書くってことができないのか?!

そういえば、手紙……、そうだ手紙だ！

スイスの学校に通うようになってからは手紙をよく書いてたじゃないか。

もっとも私の書いた手紙は、送る相手に失礼なものばかりだった気がする。たいてい文通ってものは、片方が出せば、すぐまた相手も返事を出すという、キャッチボール方式に沿うことが多いはずだが、私の場合、決まって相手が忘れた頃に届く、思いがけない手紙を書くのが常だった。

まあ、これは単に、私が筆まめじゃなかったことも理由としてあるが、決

してそれだけではない。私は、「オモイガケナク」ということにこだわっていたのだ。

とにかく、思いがけなく起こるということに、私は大変に魅かれてしまう性質で、この場合も、相手もその思いがけなさに心が踊るのでは、と勝手に思い込み、意図的に手紙の返事を遅らせていたのである。しかし、その結果、やはりなかには、返事がなかなか来なくてちょっと頭に来てしまう友人もいたようだ。その人たちには悪いが、私には唯一幸せな気分で書けるものとして、手紙だけは、好き勝手にやらせて欲しいと今でも思っている。それに、先方がすっかり忘れた頃に届く私の手紙には、多大な愛情のぬくもりがこもっているに違いない！

そんなリキむほどのことではないのだった。

そんなことよりも、私は手紙を書くという行為を通じて得た、数々の貴重な出会いをしみじみと思い起こしたいだけなのだ。

留学先で手紙を書くという喜びを味わい始めた私は、休みになって日本に帰る度に、次々と新しい文通相手を見つけて、幸せ一杯に学校へ戻っていっ

た。

ほんのちょっと前に初めて出会った人でも、早速、住所を聞き出して次の瞬間には、もう、その人にあてる手紙の内容とイメージで頭の中は一杯になっていた。相手が未知な存在であればある程、私にはありがたいものとなった。なぜなら、「構想作業」という楽しい時間がそこに生まれるのだから……。

手紙の書き方は、まず書く素材選びに始まり、次に書く道具選び、書体選び、それから、内容構成に工夫をこらして出来上がり。とはいえ、ほとんどこんな風にことを慎重に計画立ててやっていたおぼえはなく、だいたいいつもなんとなくの感で作り始め、いつの間にか一人で納得して出来上がっているのだ。

しかしまあ、何と言っても、一番ワクワクしてくるのは、目の前に用意した紙（どんな色でもそれなりに仕上がるけど、やっぱり白。素材がシンプルであればあるほど、自分がプラスしていく色々な工夫がひき立ってくるから）に初めて道具（勿論書けるものならなんでも良いが、結局、決まった空間に文章などを書くのだから、選択肢はそれなりに少なくなってしまう。と

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

いうわけでよく使うのは、細めの水性マジックペンや、かっちりした書き味のボールペンなど）が触れる時。それは、たいていのものが始まりを肝心とするのと同じ様に、さあ、このまっさらのスペースのどこから始めようかと思う瞬間に、自然と体の奥から沸き上がってくるとってもうれしい感情なのだ。

そういえば、私の学生生活に重大な変化をおよぼすことになった恋愛も、この手紙のなせるわざだったのかもしれない。新しい生活を共にするようになった私の結婚相手と出会った時も即座に、文通相手のリストの中にインプットされた。

彼の場合、時々しか返事が戻って来なかったため、かえって彼へのイマジネーションがどんどん広がっていった。未知なものへの手探りの挑戦は、何とも言えない緊張感と、快い不安で私をいっぱいにしてくれた。

彼からの手紙は、忘れた頃に思いがけなく届いた。つづられた言葉も、短くシンプルなものなのに、そこからは繊細で、美しい色のひかりが見えた。どんなに微妙な言葉をたくさん並べても、きっと私には、そのやさしいひか

りは出せないと思った。

私にとって文章は、限りなく個人的な手紙のようなものだ。恋人でも、友達でも、家族でも、会ったこともない人でも、いつも誰かに宛てて書いている。

目

次

こんにちは……1
オモイガケナク（まえがき）……4

九つ はじめての留学……16
突然の兄姉……23
バイオレントチャイルド……27
ヘンなゴハン……32
自分が原因……36
カナシイ人間物語　その（一）レスキューミー!!……45
K. U.……50

パパラルディ……54
トマトジュース……58
un amour, s'il vous plaît……61
十一月二十九日 幼な馴じみに書いた手紙……69
Y. U.……73

私の叔父さん……78
花……86
愛の大問題……94
トロイヤヤコ……100
しゃしんのおかげ……106
カレとカレー……112
カナシイ人間物語　その（二）おふろフェチ……116
ウレシイ人間物語　その（一）指輪……119
ウレシイ人間物語　その（二）血……121
ウレシイ人間物語　その（三）My Favorite Things Dec. 30th 11:02 a.m.……123
M. U.……125
あとがき（ふうなもの）……128

クリエイティブディレクション―秋山道男

ブックデザイン―鈴木成一デザイン室

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c